

第4回 飯山市旧4小学校利活用ビジョン検討市民会議

令和8年（2026年）5月21日 開催15：30 ～ 17：30

会議概要

今回の第4回「旧4小学校利活用ビジョン検討委員会市民会議」では、旧4小学校利活用ビジョン提言書について地元の人口減少、少子高齢化、観光や地域資源の課題に向き合いながら、提言書（案）のさらなるブラッシュアップを目的とした議論が行われました。

会議では具体的な言葉や視点で課題を検討し、それをどう形にしていくかを模索しました。特に、住みよい地域環境をどう具体化するか、地域の魅力をどう効果的に伝え、実現可能性を担保するかに焦点が当たり、それに基づいた議論が活発に展開されました。

【提言書（案）内容修正の議論】

提言書（案）のなかで「産業の拠点を目指すよりも、住みよい飯山を実現するための機能や施設」という部分については、「産業の拠点」、「住みよい」という部分が含んでいる意味や内容が抽象的であるといった指摘がありました。人によって異なる解釈が生まれるため、表現を明確化すべきとの意見がありました。

そして具体的に「安心を担保する飯山」や「強くたくましく生きるまち飯山」などのフレーズが提案されるなど、修正案について議論されました。また、住みよさを支えるべき具体策として、子育て世代の生活を支援する施設、地域性を活かした教育方針、そして若者と高齢者が交流できる場などが挙げられました。

【言葉の使い方と表現の改善】

個別の事業案が議論される際には、専門用語の整理が必要であるとし、「山村留学」や「クラインガルテン」といった言葉について、分かりやすく言い換えるか、注釈をつけるなど工夫が必要であるという意見が出されました。

「山村留学」などの言葉は魅力が伝わりづらいため、「自然留学」「自然教育留学」などの表現に変更すべきとの提案。

専門的な用語やカタカナ表現についてもわかりやすい翻訳や補足を添える必要性が指摘されました。

【利活用案の幅広い検討と要件定義】

資料内の利活用案についても、「提言書の内容が包括的すぎる」という意見が寄せられ、具体性を増す必要があるという指摘がありました。同時に、提案した案が実現可能かどうかを明示するためのビジネスモデルや財務的な裏づけの大切さが議論されました。特に、施設を営利目的で運営する企業や非営利団体が手を挙げるために、市が提供する条件や支援内容を詳細に示す必要性が強調されました。

（実際には公募の条件などお知らせしていくこととなります。）

【地域の具体案と課題】

旧泉台小学校、旧常盤小学校、旧戸狩小学校、旧東小学校に関連した具体案についても議論されました。特に地元コミュニティが使用している体育館やランチルームなどを、どのように利活用するかについての条件付けが重要とされました。

旧4小学校の利活用では地域行事や避難所としての機能が確保する一方で、住民が安心して利活用案に賛成し、新たな価値を生み出していくための配慮が求められることが明らかになりました。

【これからの展望】

最後に、提言書案のブラッシュアップに向けて、これまでの議論の意見を整理し再検討することが確認されました。

今後のサウンディング調査や聞き取り調査を通じて、企業やNPO等の担い手を広く募集していくことが必要だと確認されました。

- ・第5回会議に向けて、本日の意見を反映し、市民会議委員の意見を基に提言書の文言を再構築、具体例を直接反映させます。

現行の提言書（案）を改訂し修正版を全委員に配布し、提言書のリニューアル版を全委員に配布し、個別のフィードバックを収集します。

- ・市民会議委員全員が改訂版の提言書を事前に共有し、次回会議前に事前に意見を集めることとします。